

令和6年度 運営に関する計画 最終評価

評価について（４段階で評価する）４…目標を上回って達成した。３…目標を達成した。 ２…目標にやや達成しなかった。１…目標を下回った。

【安全安心な教育の推進】

	評価	結果と分析	今後の課題点
取組内容①【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】  児童が楽しく登校できるように、安全・安心な教育環境を充実させる。	4…9 3…1 5 2…0 1…0 無…1	・肯定的回答93.5% ・児童が楽しく登校できるように、安全・安心な教育環境を整えている。 ・安全点検も月１度行えている。 ・心の天気が活用されている。	・不登校傾向児童への手立て。 ・ひだまりとの連携
指標  児童アンケートにおいて、「楽しく学校生活を送っている」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90％にする。	平均：3.4 B		
取組内容②【基本的な方向１、安全・安心な教育環境の実現】  安全な学校生活の過ごし方を全校朝会や安全の日など様々な方法で児童に知らせる。	4…9 3…1 5 2…0 1…0 無…1	・肯定的回答95、1％ ・看護当番や全校朝会での申し送りができています。	・安全の日の活用。(月か木にして朝会や児童集会で呼びかけはどうか) ・染髪、ピアス、服装の指導。特に染髪は親の意識か ・職員全体での声かけ。
指標  児童アンケートにおいて、「学校の約束を守っていますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を90％にする。	平均：3.4 B		
取組内容③【基本的な方向２、豊かな心の育成】  「いいところみつけ」する場を、各学級の実態に応じて「帰りの会」や「学級会」の時間に設けるとともに、異学年での「いいところみつけ」を行う。  生活目標に「自分や友だちのいいところをたくさん見つけよう」という月を設ける。	4…3 3…2 1 無…1 平均3、1 2 B	・肯定的回答 78.3% 86.1% ・各学級でいいところみつけを行い、できるだけ言語化し、本人や周りの友達に伝えるように努めてきた。 ・たてわり班でもいいところみつけを行った。 ・カードに残すことで、本人も保護者も見ることができた。 ・生活目標にも設けていた。	・引き続きいいところ見つけの時間を継続的に設けていく。 ・自分のいい所がわかっていても、それを肯定したり、認めたりすることが難しい児童が多い。 ・児童同士や職員も学年関係なく、いいところを伝え合えるようにする。 ・たてわり班でのいい所見つけでは、全校満足のことなど決まった文章が多く、深みのある文章にならない。行事等の後にその場でフィードバックの時間を設けてはどうか。 ・高学年の自尊感情を高める。
指標  児童アンケートにおいて、肯定的回答の児童の割合を「自分によいところがあると思いますか」の項目においては70％以上、「友だちの良いところを見つけることができましたか」の項目においては85％以上にする。			
取組内容④【基本的な方向２、豊かな心の育成】  様々な体験活動を通して、人や事との出会いの場を多く設け、豊かな心を育む。	4…8 3…1 6 無…1 平均3、3 B	・各学年でそれぞれの交流や体験活動を行うことができた。 ・芸術鑑賞も計画通り実施できた。 ・高学年がよく低学年を見てくれていた。	・「楽しかった」で終わるのではなく、経験したことを学校生活で取り入れたり、関連させたりすることが大切。
指標  遠足や社会見学、異学年交流等の体験活動を年間3回以上行う。  年に1回以上、芸術鑑賞を行う。			
取組内容⑤【基本的な方向２、豊かな心の育成】  いろいろな国の友だちとふれあい、世界の国々の文化や言語を知ること、理解を深めあう。  自分や自国を大切にできる気持ちを育てることで、他国を大切にできる態度を養う。  外国にルーツのある子どもたちを尊重し、周囲に理解される場面を作り、自己肯定感を高める。	4…4 3…2 2 平均3.15 B	・「友だちのことを知ろう週間」では楽器や服装を触って体験することで、異国の文化に対する興味関心を高めることができた。また在席児童のルーツのある国を児童集会やクラスで紹介することで外国にルーツのある友だちを尊重する気持ちが育った。 ・低学年は音楽科を通して各国のあいさつの言葉を教えたり歌を歌ったりして交流し、特に同じルーツを持つ児童間で深い交流を図ることができた。また、中学年は総合的読解力カリキュラムのテーマ「食」の学習を通して交流することで、互いの文化の理解を深めることができた。	・他校から日本語センター校に通級している児童は流動的なので、交流の時間を作るのはなかなか難しい。来年度は低学年と高学年との交流を図るように変更する。
指標  年に1回「友だちのことを知ろう」週間を設け、様々な国の文化にふれられるようにする。  低学年、中学年、高学年と国語科や総合科、生活科などをの学習を通し、日本語指導センターに通級している児童との交流を図る。			

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

	評価	結果と分析	今後の課題点
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>漢字学習を計画的に進め、漢字の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標 1～4年生は、3学期に漢字の学年末テストを行う。 5・6年生は漢字能力検定で合格率78%を目指す。</p>	<p>3…10 2…13 無…2</p> <p>平均…2.4</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合格率 5年75% 6年73% あわせて74%</li> <li>・合格率78%を達成できなかった。</li> <li>・継続して漢字学習を計画的に進めている。定着を図るために家庭学習や定期的な漢字テストを実施し、3学期末にテストを行う予定であるため、取り組みとしては達成している。</li> <li>・高学年は漢検に向けて取り組み、低学年も漢字学習の定着を図ってきたが、漢検の結果を見ると、上の級や標準の級を受けた児童より、下の級を受けた児童の合格率が低い。今までの積み重ねが足りない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定着が難しい児童への手立て。(特別支援児童を含むかどうかは要相談。やはり難しい。)</li> <li>・モチベーションを含め漢検対策を強化する。年度当初から計画的に進めていく必要があった。低学年から継続して行っていく必要がある。</li> <li>・5～6年生は一人一冊練習問題や模擬テストの参考書が必要。(毎年必要になるので印刷しなくてもある程度できるように。)</li> <li>・漢字を使う習慣がないため普段から学習した漢字を使うことを癖付けさせ、ノートやプリント等も積極的に漢字を使う指導が必要。</li> </ul>
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>算数科の指導法の研究を進める。家庭学習の充実を図る。</p> <hr/> <p>指標 全学年で年間1回、算数科で研究授業を行い、研究協議会で話し合われたことを記録・整理し、日々の授業に生かすようにする。 小学校学力経年調査における「算数の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を66%以上にする。</p>	<p>4…4 3…19 2…1 無…1</p> <p>平均…3.12</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答62.7%</li> <li>・全学年で計画的に研究授業を行い、協議会で話し合われたことを、日々の授業に生かすことができた。</li> <li>・研究授業を通して、子供たちの算数に対する意識は変わってきた。</li> <li>・なかよしの担任も含めた全員が参加できる研究授業が行われたのが、ありがたい。</li> <li>・誰一人取り残さないための手立てを講じていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふきだしくん」もおもしろいが、協議会は全体よりグループ協議のほうが内容が深まったように感じる。</li> <li>・算数が苦手な子はまだ多いように感じる。</li> <li>・2年間の積み重ねを踏まえ、共有するところは共有し、3年目につなげたい。</li> <li>・少人数や習熟度別、TTなどをして、苦手意識のある児童の底上げをしていくことが大切。</li> <li>・ICTをどう活用していくか。</li> </ul>
<p>取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>委員会活動や体育週間で児童が体を動かすことの関心を高めたり、知識を深めたりできるように活動を工夫していく。</p> <hr/> <p>指標 体育週間を年間2回以上行う。 年間を通じて、運動場での集団遊びを実践する。</p>	<p>4… 6 3…18 無… 1</p> <p>平均…3.3</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動委員会の児童が放送で呼びかけたり、手本を見せたりして、1学期は「ラジオ体操週間」、2学期は「ながなわ週間」、3学期は「短なわ週間」を計画通り実施してきた。また、学級でのみんな遊びを定期的に行ったり、体育週間の実施前後に学年・学級でも練習するなどの取り組みを行ったりすることで、体を動かすことの関心が高まった。</li> <li>・児童アンケート「体を動かすことは好き」肯定的回答83.7%だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場に出たがらない児童への声かけを日頃から行う。</li> <li>・ケガをしないように気を付ける意識をもたせる。</li> <li>・校舎増築等の工事で運動場が狭くなった時の児童の運動量の確保や遊び方についての指導。</li> <li>・関心は高められるが、知識をどのように深めるのか。</li> </ul>
<p>取組内容④【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>正しい手洗いの仕方を知り、実践する習慣を身につける。 「早寝・早起きめあてカード」を活用し、同じくらの時刻に寝て、起きる習慣を身につける。</p> <hr/> <p>指標 学期に1回生活点検週間などを設け、児童の健康の意識を高める。 「早寝・早起き週間」を年に1回実施し、保護者に啓発を図る。</p>	<p>2…5 3…20 無…1</p> <p>平均…2.8</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎学期1回ずつの生活点検週間や早寝早起き週間を予定通り実施でき健康に対する意識を高めるように努めた。また保護者のコメント欄を設けたことで保護者への啓発を図ることができた。</li> <li>・手洗いうがいについて肯定的な回答は96.2%であり、音楽効果もあって習慣が身についている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の児童の遅刻が本当に多く様々な場面で啓発していく必要がある。</li> <li>・早寝早起き週間を1学期に行い、年度初めから意識を高めていくことも大切に感じる。</li> <li>・寒くなり運動場に出ない児童は手を洗うことが減っていたり、水だけで手を洗ったり、ハンカチで拭かない児童がいるなど、コロナ禍よりも手洗いの意識が薄くなっている。</li> </ul>
<p>取組内容⑤【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>学校給食を中心に「食」への関心を高め、望ましい食習慣を身につけられるようにする。</p> <hr/> <p>指標 全校集会などで児童が食の関心を高めたり、知識を深めたりできるように年1回以上の発表を行ったり、掲示物を作成したりするなど委員会活動を工夫していく。 各学級で給食を中心に、給食カレンダーや給食だよりなどを活用しながら食への関心を深める指導を継続して行う。</p>	<p>3…17 4…7 無…1</p> <p>平均 約3.29</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童集会で給食委員会による「食」に関する発表を、食育月間の6月と全国学校給食週間の1月に計2回実施した。掲示物や給食時間の放送クイズなど給食への関心が深まる取組を行った。</li> <li>・栄養教諭による栄養指導を全学級2回ずつ実施した。</li> <li>・各学級で、給食だよりや給食カレンダーを活用したり、献立や食材について話をしたり、教科学習や総合的読解力カリキュラムで「食」を取り上げたりするなど、「食育」を進めてきた。</li> <li>以上の取組で、「食」への関心が高まり、食べることの大切さを知ることや望ましい食習慣を身につけることにつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続指導</li> <li>・朝ごはんを食べていない児童や偏食の児童などについては、個別に児童や家庭にはたらきかけていく。</li> </ul> <p>学校アンケート「朝ごはんを食べている」 はい・・・85. 5% だいたい・・・10. 2% あまり・・・3. 3% いいえ・・・1. 0%</p>

【学びを支える教育環境の充実】

	評価	結果と分析	今後の課題点
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>1人1台学習者用端末を含め、ICT機器を積極的に活用した授業を行う。</p>	<p>3…12 4…11 無…2</p> <p>平均 約3.48</p>	<p>どの学年も、教科や学習内容に応じてスクリーンやデジタルドリル等、積極的に一人一台学習者用端末を含む、ICT機器を活用することができていた。</p> <p>また、ICT機器を活用することで学習に対して苦手意識をもつ児童も意欲的に学習に取り組む姿が見られた。</p> <p>情報活用能力チェックリストにおいて全12項目中、半数以上できると回答した児童の割合が目標値である70%を大きく超える100%を達成した。また、全項目できると回答した児童の割合は74.5%だった。以上のことから、木川小学校では教育DXが着実に進み、児童も基本的な操作を身につけることができていることがわかる。</p>	<p>教員によって、一人一台学習者用端末を含むICT機器活用するスキルに差がある。更なる教育DXの推進のため、ICT支援員との連携を深めることが大切である。</p> <p>また、互いにICT機器等の活用法について交流したり、効果的な活用方法について知識のある教員の学級では、どのように活用しているのかをもっと広めたりするとよい。</p>
<p>指標</p> <p>ICTを効果的に学習に活用し、情報活用能力（ICT）チェックリストの12項目中、半数以上「できる」と答える児童の割合を70%以上にする。</p>	<p>A</p>		
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>定時退勤や年休の取得を促す。</p>	<p>2…6 3…15 4…4</p> <p>平均2.9</p>	<p>ゆとりの日の週1回設定や学校閉庁日の4日間設定など指標は達成できた。教職員間で快くサポートしあう雰囲気があり、年時休や看護休を取りやすかったり、出張に行きやすい。</p>	<p>定時退勤を意識するようにはなっていない。業務や行事の効率化や精選、取捨選択が必要である。</p>
<p>指標</p> <p>ゆとりの日を週1回以上設定する。</p> <p>学校閉庁日については、長期休業期間中に3日以上設定する。</p>	<p>B</p>		
<p>取組内容③【基本的な方向9、家庭・地域等と連携・協議した教育の推進】</p> <p>運動会や作品展などの主な学校行事を保護者や地域に公開するとともに、学習参観や学校公開の両方を工夫する。</p> <p>児童の頑張っている姿を学校だより・学年だより・学校ホームページなどを通して、家庭・地域に向けて情報発信することに努める。</p>	<p>3…13 4…11 無…1</p> <p>平均3.4</p>	<p>指標通り、学期に1回以上参観または行事の公開、年に2回以上学校公開日を設け、保護者や地域の方へ学校の様子を知らせることができた。また、学校だよりや学年だより、HPの更新等を通して学校の様子を発信することができた。</p>	<p>教職員の負担の少ない学校公開の在り方を今年度の調査結果から考える。また、学習参観・学校公開の際には私語や写真撮影を控える等、保護者のマナーを向上が課題である。</p>
<p>指標</p> <p>学期に1度以上、参観または行事の公開を行う。</p> <p>年に2回以上学校公開日を設け、保護者や地域の方への紹介に努める。</p> <p>学校だよりや学年だよりを月に1回以上発行するとともに、月に1回以上各学年がHPを更新する。</p>	<p>A</p>		
<p>取組内容④【基本的な方向9、家庭・地域等と連携・協議した教育の推進】</p> <p>全学年において、地域の方との体験活動等を通して人や事との出会いの場を多く設け、豊かな心を育む。</p>	<p>3…12 4…12 無…1</p> <p>平均3.5</p>	<p>指標通り、地域の方と「世代間交流」としてともに活動したり、各学年1回以上ゲストティーチャーを招いての出前授業を行うことができた。また、次年度以降へ向けての記録も残すことができている。</p>	<p>継続して取り組むとともに、実施するにあたり、より良い時期や場所を考える。（酷暑、厳寒の時期を避けたり、エアコンのある場所で行う等）</p>
<p>指標</p> <p>全学年において、地域の方と共に活動する学習を計画する。</p> <p>ゲストティーチャーを招いての出前授業を、全学年において年間1回以上行う。</p>	<p>A</p>		